第５学年　総合的な学習の時間　学習指導案

授業日	10 月 20 日（水）	活動場所	5 年 2 組教室	児童数	31 名	指導者	中 井　雄 揮

単　元　名	出動！環境探検隊　～加茂名の自然を守ろう～
探 究 課 題	身近な自然環境や環境問題とそれに関わる人々（環境学習）
単元の目標	地域環境の保全に携わる方々と関わる活動を通して，様々な人々の思いや努力によって地域の環境が維持されていることを理解し，地域の自然を守るため，自分たちのビオトープを地域の自然に近づける方策を考え，実践することができる。
児 童 観	・何事にも興味をもって取り組むが，自分の思いや考えを表現することに課題をもっている児童が多い。 ・ビオトープをよくする活動をしたり，ビオトープに関わってきた人々の話を聞いたりして，学校ビオトープに対しての活動意欲が高まっている。 ・自分たちの思いを優先し活動を進める姿が見られていたが，地域の環境を守っている方々と関わり，自然に近いビオトープにするために活動を修正してきた。
教 材 観	・校内にビオトープがあり，生活科や理科の学習の場として観察を行ったり，憩いの場として登下校時に立ち寄ったり，児童が常にビオトープと関わることができる状況にある。 ・ビオトープはいろいろな生き物がすむ場所であり，地域の生態系を身近に感じられる空間である。多くの自然が失われつつある現在では，地域の生態系を守る役割もある。また，学校ビオトープは自然環境教育の場として，子どもたちが生きた自然に触れられる貴重な場となっている。 ・ビオトープを作った人々や守り続けてきた人々，地域の環境を守ってきた人々の思いや願い，努力を知ることで，児童は地域に対する誇りや愛着をもち，これを守っていきたいという思いから，意欲的に考えたり，活動したりできる教材である。
指 導 観	・地域の環境やビオトープを守る取組をされてきた方と複数出会わせることで，地域の環境を守り続けたいという共通の思いがあることに気づかせる。 ・自分たちのビオトープに対する思いや願いと，話をうかがった方の思いや願いを比較することで，相違点や共通点に気づかせるようにする。

評価規準	知識・技能（A）		思考・判断・表現（B）		主体的に学習に取り組む態度（C）	
	① 概念的な知識の獲得	ビオトープを守ることのよさに気付き，それらに関わる人々の思いや願いを理解している。	① 課題設定	前単元までの活動を振り返ることを通して，地域の自然に近いビオトープにするための課題を明らかにしている。	① 自己理解・他者理解	話合い活動を通じて自分と異なる意見や考えがあることに気付き，相手の立場を理解しようとしている。
	③ 探究的な学習のよさの理解	地域環境への認識が高まることは，身近な自然環境やそれに関わる人々について探究的に学習してきた成果であると気付いている。	② 情報収集	課題の解決に必要な情報を，相手や手段を選択して多様に収集している。	② 主体性協働性	ビオトープを守ることの良さに気付き，友達と協働して活動に取り組もうとしている。
			③ 整理分析	これまでの活動を通して得た情報を関連付けながら，地域の生き物が生活できるビオトープにするために必要な活動を考えている。		
			④ まとめ表現	考えたビオトープでの活動を，状況に応じて修正しながら実践している。		

単元計画及び評価規準

大単元「出動！環境探検隊」　70時間

小単元Ⅰ「わたしたちのビオトープ」㉚

自分たちの理想のビオトープに近づけるために，どのような活動が必要か考え，取り組む。

・池を整備しよう　・鳥を呼ぼう　・生き物を調べよう
・花を植えよう　・水路をよくしよう　・水をきれいにしよう

小単元Ⅱ「環境を守る取組に携わる人の思いを知ろう」⑧

環境を守る取組をされている方の思いや目的を聞き，加茂名南小のビオトープの在り方について考える。

・ビオトープに詳しい布川さん　・市環境課の職員
・加茂名南のビオトープを守ってきた先生方　・袋井を美しくする会の荻野さん

小単元Ⅲ「加茂名の自然を守ろう」⑰【本時８／１７】

地域の自然に近いビオトープにするために，どのような活動が必要か考え，計画書を作成し取り組む。

・袋井用水の上流にすんでいる地域の生き物のすみかにしよう
・地域の自然に近いビオトープに改良する計画書を作成しよう

探究の過程	課題の設定	情報の収集・選択	整理・分析	まとめ・表現
ゴール 地域の自然に近いビオトープにしよう。 （１７時間）	ビオトープに携わってきた人々の思いから，地域の自然に近いビオトープにするという課題を設定する。 A-1　B-1	地域の生き物について，必要な情報を収集したり，専門家へ質問したりして，取り上げる地域の生き物を決定する。 A-3　B-2	調べたことや聞いたことをもとに，地域の生き物が生活できるビオトープにするための活動計画書を考える。 **【本時 8/17】** B-3　C-1	適宜活動を修正しながら，計画書に沿って活動する。 B-4　C-2

小単元Ⅳ「みんなのビオトープへ」⑮

自分たちが活動してきたビオトープが，みんなのビオトープとして守り続けてもらえるようにするために，自分たちの取組や思いを伝える。

・下学年に伝える引き継ぎ式をしよう。
・自分たちの取組が伝わるよう，内容や方法を考える。
・これからもビオトープを守り続けるために必要なことを考え，実行する。

本時の目標	地域の生き物がすめるビオトープにするために，池のアメリカザリガニに対する手立てを考える。

児童の活動	○教師の支援　◆評価規準及び評価の方法
１．本時のめあてを確認する。 池のアメリカザリガニをどうするか考えよう。	○ワークシートや振り返りカードを参考に，前時までの学習を振り返ることができるようにする。 ○アメリカザリガニは外来種で，地域の自然にはもともと存在していないことを確認させる。
２．グループごとにザリガニに対する手立てを考える。 ・ザリガニをすべて取り出す ・ザリガニの数を減らす ・そのままにしておく	○地域の生き物がすめるビオトープにするために話し合うことを確認させる。 ○話合いが深まりやすいように，グループごとにランキングを作成させる。 ○これまでに得た知識や情報を根拠に話し合うように促す。 ◆これまでの活動を通して得た情報から，ザリガニに対する手立てを考えている。（ワークシート・発言　B-3）
３．グループで考えたランキングをもとに，アメリカザリガニをどうするか，クラス全体で話し合う。	○自分の考えと同じところ，違うところ，参考になったところに着目できるように，視点を与えていく。 ○話合いを経て考えが変わった児童の意見を聞き，全体の意見がまとめられるようにする。
４．本時の振り返りをする。	○振り返りシートに記入し，次時への見通しをもたせる。

本時の評価		
	「十分満足できる」と判断される状況	・地域とビオトープの生態系を関連付けながら，理由や根拠を明らかにして手立てを考えている。
	「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	・友達の意見に対して，自分はどう思うのか問いかけ，自分なりの考えをもつことができるようにする。